

職員の皆さんへ

毎日暑い日が続きますが、それぞれの立場において懸命に職務に精励されていることと思います。

今年は梅雨明けが早く7月に入ってから台風7号が襲来してからというもの、その後は連日灼熱の太陽が容赦なく照りつける夏日が続く、全国的にも熱中症などの症状で救急搬送される事案が数多く見受けられます。まさに「一難去ってまた一難」とため息をつきたくなるほど自然の猛威は人間の暮らしに試練を与え続けますね。

そうぼやいてみても日常の仕事は待っていてはくれません。与えられている任務をしっかりと責任をもって遂行することは公務員のみならず社会人として当然のことと思います。

そんな時にふとしたことから手にした書籍が『逃げる力』（百田尚樹・著、PHP新書）でした。

作品の「まえがき」には、『会社から逃げる、人間関係から逃げる、目の前のピンチから逃げる…など、いろいろありますが、これらは「よくないこと」という気がしているのではないのでしょうか。』と問題提起してあり、目次には『会社や仕事から逃げる』『人間関係から逃げる』『突発的危機から逃げる』『国の危機から逃げる』などの章立てがあります。

全体的なトーンとして「戦って損をするより逃げて自分を大切にしよう」というメッセージが込められていますので、市長という立場でこの点だけを職員の皆さんに強調し過ぎると、明日から市役所に誰もいなくなってしまうかもしれませんね（笑）。もちろん内容はそんな極端なことが書いている訳ではありませんので、ご安心を。

それではいくつか抜粋してみます。

『つまり人体自体が、すべてを全力投球できないようにできているのですから、仕事などでも何でもかんでも全力投球ではなく、バランスよく配分していくことが、人間の在り方なのだと思います』

『力を入れるときには力を入れるけれど、手を抜くときは手を抜きましょう。大事な仕事とそうでない仕事の優先順位をきっちり考えて、自分にとって大事な仕事ならとことん頑張る一方、そうでない仕事なら、割り切って「これは五分ぐらいの力」「八割でやる」などと分けていくのです。皆さんも周囲を見渡してみてください。仕事のできる人間は、すべてのことに全力投球してないことがわかるでしょう。力を入れるバランスが巧みなのです』

これらの指摘には、実は私にも思い当たるところがあります。いくら深く考えても何も浮かばず仕事が前にすすまない時、思い切って「今日は止め！」とデスクを離れ、自宅に帰る道すがら歩いている時にアイデアが浮かんだり、家事の手伝い（風呂掃除、茶碗洗い、アイロンかけ）など単純な作業の合間に言葉や表現が湧いてきたりします。結果的に前日に一時間以上かかった仕事が翌日には数分で出来上がったりしたことが数多くあります。

それに加えて仕事のメリハリを決めるのが大切です。例えば、あらかじめ休みの日を定めて、その日までの工程表を自分なりに作っておき、これに基づいて次々と仕事をこなしていきます。途中で割り込んでくる雑用は瞬時にこれを片付け、工程表に記したペース配分を重視して仕事を進めます。そうすれば必ず休みが取れるように自己訓練ができます。

もう一つ重要なのは、このペース配分が上手くいって、仕事の節目節目で一つずつ達成するごとに自分を自分で褒めるのです。「よっしゃ、俺って天才だ！（そうでないかもしれないけど）」「これって完璧だ！（不完全かもしれないけど）」などと自分の心の中でつぶやきながら次に押し寄せる原動力に備えるのです。

このような一定のリズムや周期を意識しながら仕事をすると、同じプロジェクトの仲間の仕事の進み具合や取引先との連携などにもアンテナを張ることができ、彼らの仕事の進み具合などが自然と伝わってきます。これがチームワークにつながるのではないのでしょうか。

そしてこの本の後半、「第八章 守るべきものがあれば、逃げられる」に大事なことが記されていました。

『果たして、皆さんは、幸せの絶対的な基準を持っているのでしょうか。幸せの絶対的な基準を持っていないと、他人との比較によって、相対的に幸せを測るということになります。そうなるとうちに本当に幸せになることは難しくなってしまうのではと思います』

つまり誰かと比べて「あいつより俺が勝っている」「隣の〇〇よりも自分のほうがマシだ」などという基準に重きを置いていると、その人に追い越されることを恐れ、またライバルを追い落としてしまいたくなる衝動にかられます。学歴とか給料とかは生きていくうえでは単なる手段であり、目的ではないということです。

結論として幸せの絶対的な基準は「自分自身の健康と家族」です。仕事とは、これらを守る手段でしかないと言っています。まさにその通りです。

政府は先の国会の目玉法案として「働き方改革」を打ち立てました。このことは私たち地方公務員の労働環境についても考えなければなりませんし、公共事業や契約などの取引相手先の労働環境（つまり工期や納期の設定など）にも配慮しなければならないということでもあります。

時代の移り変わりは、市民のニーズや価値観の多様化につながります。その分、仕事も増えることを想定しなければなりません。そうであれば、目の前の仕事の中で「形式的に継続しているもの」「時代的な役割が終わっているもの」などを抽出し、さっさとゴミ箱に棄てましょう。記録としてとっておけばいいだけものを選別しパソコンのフォルダに保存しましょう。過去のやり方にこだわり続けていくことは大変疲れますし、進化がもたらされません。

最後に今回の私のつぶやきの結論ですが、健康診断や人間ドックは早めに予約をして、その日は休むことを上司や同僚に前もって告げておき、できれば夫婦そろって休みを取ることもお勧めします。

心身ともに健康で、意欲に満ちた労働環境を自らが整え、この夏を楽しく頑張りぬきましょう！

平成 30 年 8 月 1 日

平戸市長 黒田成彦